

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会 第八期(令和2年度) 事業報告(説明書)

◆事業報告：理事会・総会の開催報告

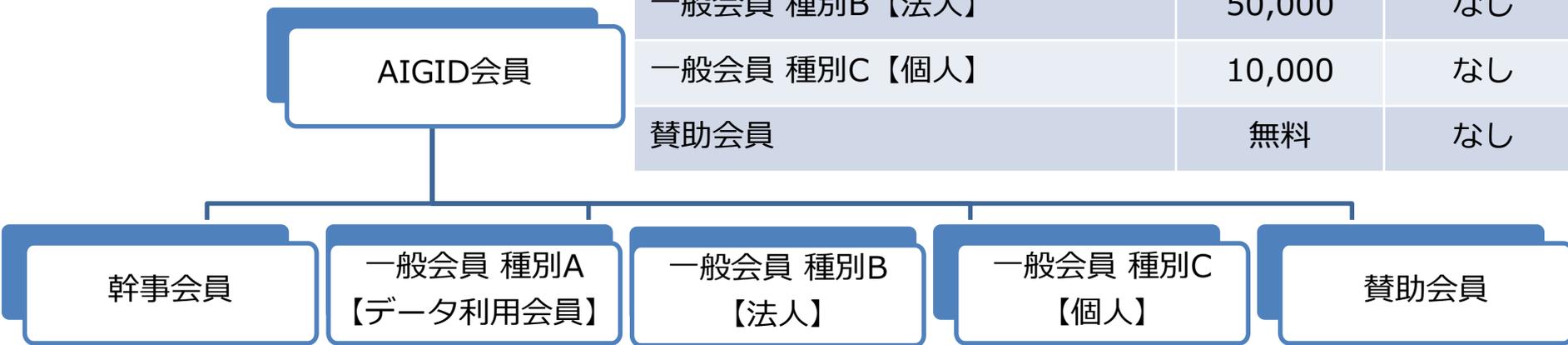
- ◆ 総会1回、理事会3回実施（事業計画、事業報告の承認、役員の変更など）
- ◆ 役員立候補制の導入検討

- 事業期間
 - － 令和2年10月1日～令和3年9月30日
- 理事会・総会の開催計画

年	月日	会議区分	主な議題
令和2年	11月26日	理事会	・ 第七期（令和元年度）事業報告 ・ 定時社員総会の開催
	12月24日	第七回定時社員総会	・ 第七期（令和元年度）決算 ・ （報告）第八期（令和2年度）事業計画及び予算計画
令和3年	5月19日	理事会	・ （報告）AIGIDの活動状況
	9月15日	理事会	・ 第九期(令和3年度)事業計画 ・ （協議）役員候補の立候補制導入について

◆ 会員区分

会員区分	年会費	総会議決権
幹事会員	600,000	○
一般会員 種別A【データ利用会員】	300,000	なし
一般会員 種別B【法人】	50,000	なし
一般会員 種別C【個人】	10,000	なし
賛助会員	無料	なし



本協議会の趣旨に賛同し、社会基盤情報の流通環境の整備に協力をいただくとともに、本協議会の運営にも積極的に関与いただける法人、東京大学空間情報科学研究センター「G空間宇宙利用工学」社会連携・寄付研究部門の参加者で、当該寄付研究部門の活動の一環として運営に積極的に関与いただける者。

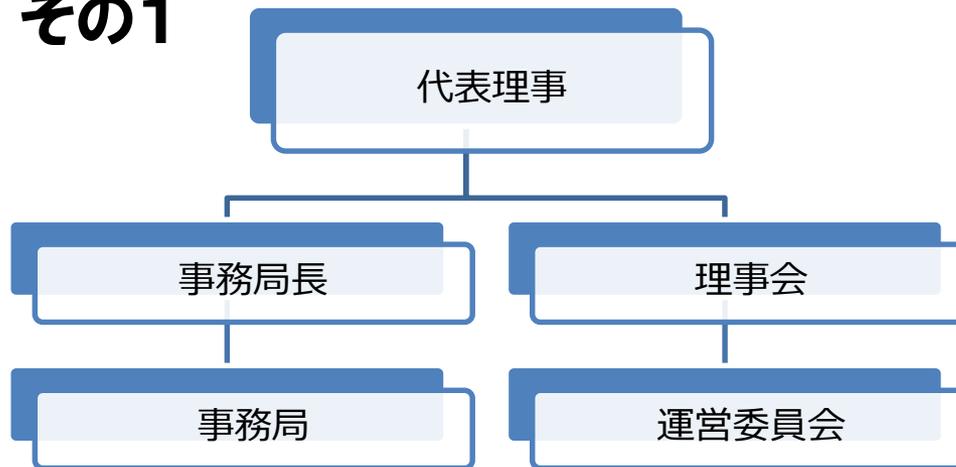
本協議会の趣旨に賛同し、社会基盤情報の流通環境の整備に協力をいただける法人/個人。

プラットフォーム等を通じて提供する有償サービスの一部（データ・サービス提供者の承諾を得られたもの）についての一時的な利用が可能。

本協議会の趣旨に賛同し、社会基盤情報の流通環境の整備に関し、ご助言、ご協力をいただける、国機関、地方公共団体、大学等教育・研究機関、またはそれらに所属する有識者。

※会員別の解説文は、定款より抜粋

◆運営体制 その1

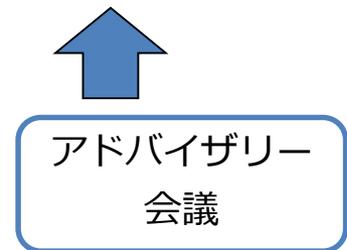
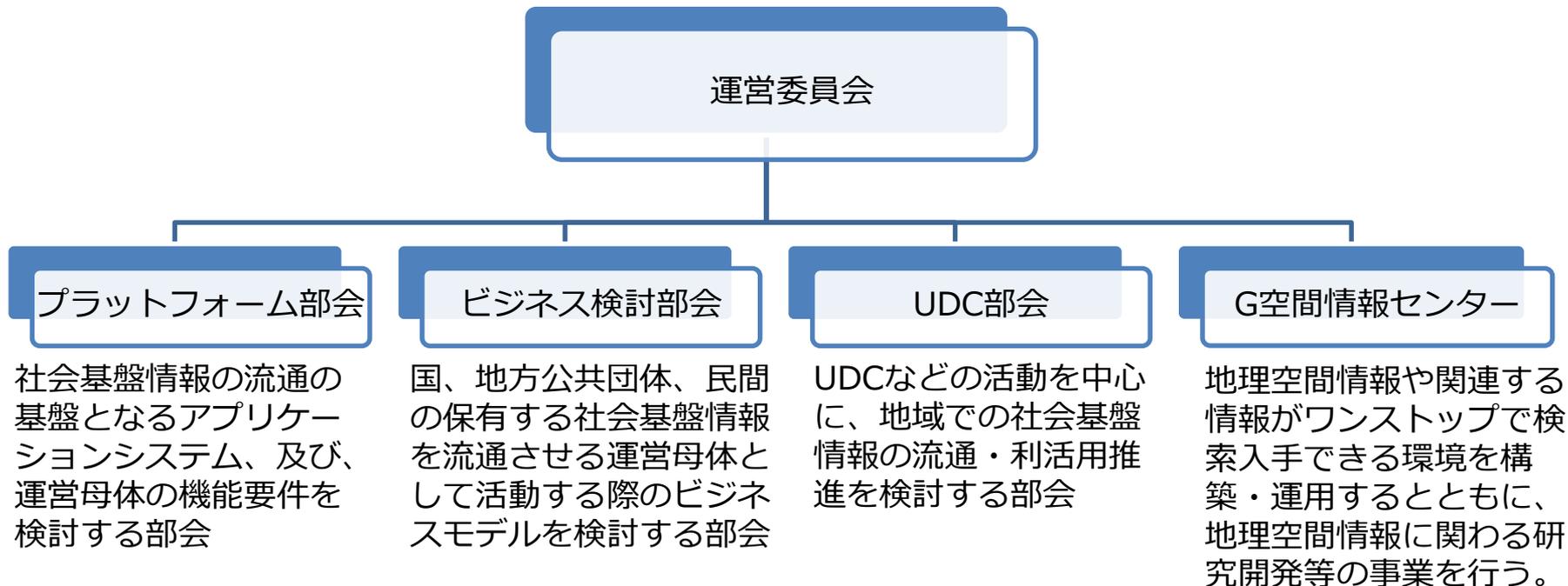


役職	氏名		
代表理事	関本 義秀		
理事	政木 英一	新規ビジネス担当	
理事	関口 徹	コンプライアンス・セキュリティ・財務・経理・総務・法務・契約	
理事	新井 邦彦		
理事	井上 陽介		G空間情報センター
理事	菊地 英一		
理事	大伴 真吾		
理事	瀬戸 寿一		
理事	上山 晃	広報・普及	
理事	住田 英二		
監事	山田 晴利		

事務局	氏名	(所属)
事務局長	山本 尉太	(アジア航測)
入会担当	神波 修一郎	(長大)
理事会・総会担当	青島 竜也	(国際航業)
理事会・総会担当	前田 範章	(国際航業)
定款・内規担当	角田 明宝	(アジア航測)

※下線：第七期（平成30年度）に変更のあった点
伊藤千志理事、大塚健太理事は令和2年3月末で辞任

◆運営体制 その2



G空間情報センター運営の助言を行う。

役職	氏名	(所属)
プラットフォーム部会 部会長	菊地 英一	(長大)
プラットフォーム部会 副部会長	大伴 真吾	(朝日航洋)
ビジネス検討部会 部会長	石井 邦宙	(アジア航測)
ビジネス検討部会 副部会長	藤津 克彦	(建設技術研究所)
ビジネス検討部会 副部会長	井上 陽介	(価値総合研究所)
アーバンデータチャレンジ部会 部会長	伊藤 顕子	(日本工営)
アーバンデータチャレンジ部会 副部会長	山本 尉太	(アジア航測)
G空間情報センター センター長	柴崎 亮介	(東京大学)

◆活動報告：社員数(令和3年9月30日現在)

◆ パシフィックコンサルタンツ様、玉野総合コンサルタント様の入会

総社員数

14

・ 社員一覧

社員名	入会日	備考
株式会社 建設技術研究所	H26/4/1	幹事会員
株式会社 パスコ	H26/4/1	幹事会員
アジア航測 株式会社	H26/4/1	幹事会員
株式会社 ゼンリン	H26/4/1	幹事会員
国際航業 株式会社	H26/4/1	幹事会員
朝日航洋 株式会社	H26/4/1	幹事会員
株式会社 長大	H26/4/1	幹事会員

社員名	入会日	備考
株式会社 価値総合研究所	H26/5/20	幹事会員
ESRIジャパン 株式会社	H26/6/12	幹事会員
日本工営 株式会社	H26/9/25	幹事会員
NTTデータ 株式会社	H30/6/29	幹事会員
NTTインフラネット株式会社	R2/4/1	幹事会員
パシフィックコンサルタンツ株式会社	R3/5/10	幹事会員
玉野総合コンサルタント株式会社	R3/5/26	幹事会員

◆事業の成果

- ◆ G空間情報事業は、ニューノーマルな動きを踏まえつつも、引き続きG空間情報センターを中心とした活動、既受託事業の確実な推進と収益の向上を目指した
- ◆ UDC事業はオンライン開催を前提とし、デジタルデータが多様な主体によって持続的に流通・活用されるスマートシティの実現に向け、アーバンデータに関わる様々な業界・主体とも積極的に連携した

・ 第八期の事業

G空間事業

(1) G空間情報センターの運営

- ・ 「令和3年度G空間情報センターを通じた地理空間情報の流通・利用促進業務」を通じたデータの登録と提供
- ・ 災害時における通行実績、緊急撮影等のデータ提供
- ・ データ有償提供、センター利用会員制度の運用は継続

(2) 社会基盤情報の流通・利用促進のための活動

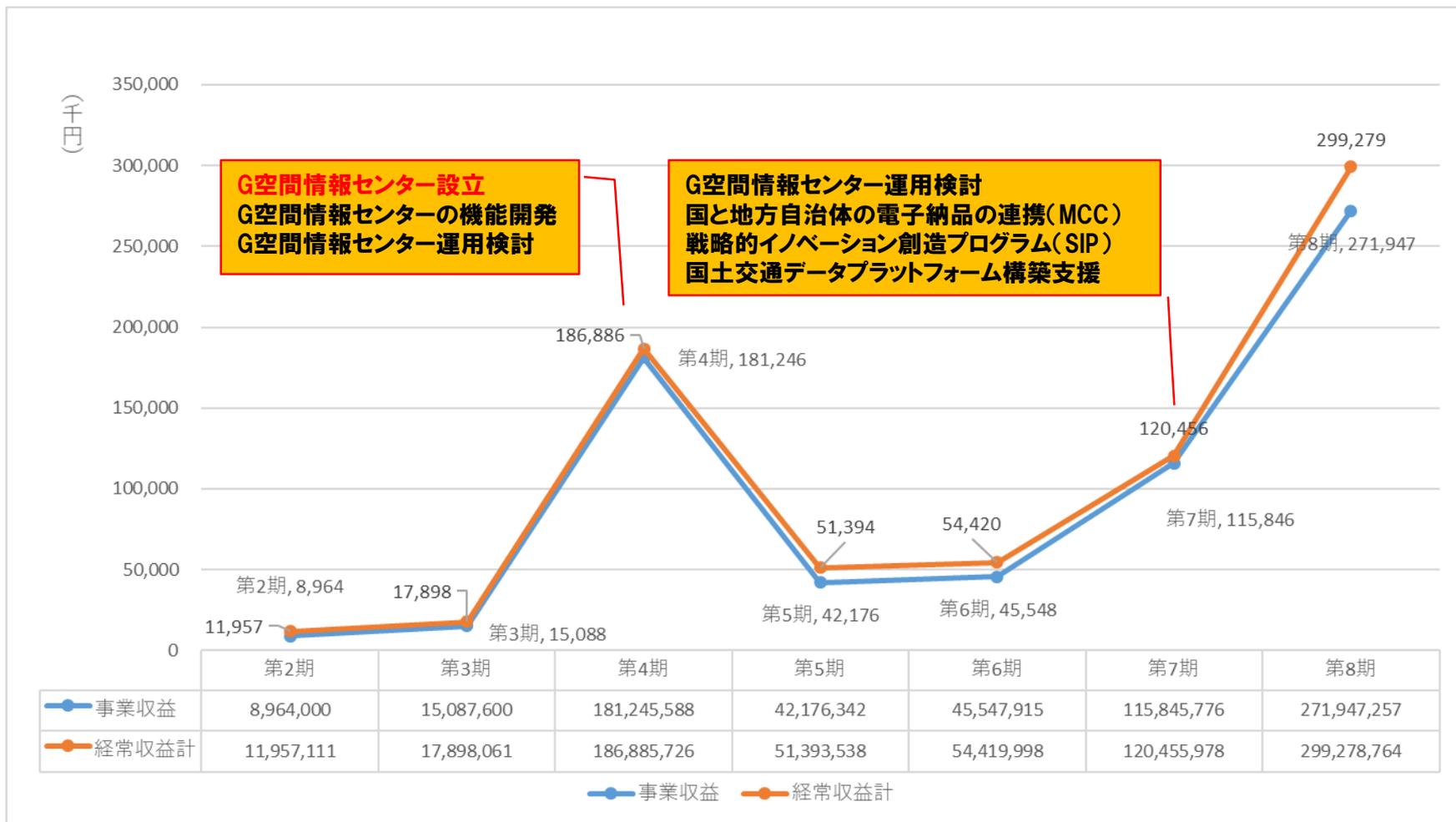
- ・ 国等からの委託事業（収益事業）を通じて、社会基盤情報を蓄積、管理し、利用を図るためのシステム構築、実証実験を実施
- ・ MCF、MCR、MCC普及・促進
- ・ 「民間事業者によるリアルタイム災害情報提供研究会」「デジタルスマートシティ研究会」
- ・ 有償セミナーの実施

UDC事業

- ・ アーバンデータチャレンジ2020・2021
- ・ 土木学会インフラデータチャレンジとの連携

◆ 事業収益の推移

- ◆ 主たる収入は会費、受託事業、データ有償販売、有償セミナーの実施など
- ◆ 事業収益拡大のための受託事業は徐々に増えてきており、7期から黒字に
- ◆ 事業収益は対前期（7期）2倍以上の増加



G空間情報センター設立
G空間情報センターの機能開発
G空間情報センター運用検討

G空間情報センター運用検討
国と地方自治体の電子納品の連携(MCC)
戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
国土交通データプラットフォーム構築支援

◆G空間事業 (1) G空間情報センターの運営

- ◆ 国土交通省国土政策局からG空間情報センター運営に関わる事業を2016年から継続的に受託
- ◆ センターへの自治体データの登録、課題やニーズの整理、ショーケースの拡張を実施
- ◆ 一年間で、データセット数が2,000件以上増え7,626 (R3.11.15) に、ショーケースの掲載数も25になった



ショーケース



ニュースレター

G空間情報センターでは、G空間情報に関連するホットピックやセンターに関連する皆様の声などを紹介するニュースレターを、定期的にメールにて配信しています。

最新のニュースレターをメールで受け取りたい方は、ユーザ登録（無料）をお願いいたします。
[こちら>>>](#)

ニュースレター配信から2週間遅れ程度で、こちらでもご覧いただけるよう公開いたします。（2020年度分以降が対象です）
下記の公開版PDFは、メールでの配信内容と一部異なる場合があります。

- 2021年5月発行 第25号
- 2021年3月発行 第24号
- 2021年1月発行 第23号
- 2020年11月発行 第22号
- 2020年9月発行 第21号
- 2020年7月発行 第20号
- 2020年5月発行 第19号

日本を楽しむ外国人旅行者

これは約1万人の訪日外国人が立ち寄った施設と場所を国別に24時間にまとめて可視化したものです。
同一1kmメッシュ内に30分以上連続して存在した場合にその場所に滞在したと判断して表示しています。

【主な内容】

- 訪日外国人が立ち寄った東京の施設と場所の上位20位を表示
- 任意の5か国(アメリカ合衆国、タイ、台湾、オーストラリア、シンガポール、東アジア地域(中国、韓国等))を表示
- 約2ヶ月間の移動データを24時間に集約して表示
- 立ち寄り施設は3次メッシュ(1km)内の代表的な施設と場所を表示

【使用データ】

- 株式会社ナビタイムジャパン
 - 全国のインバウンドGPSデータ 全国のインバウンドGPSデータ
 - スマートフォン向け乗換・観光案内アプリ「NAVITIME for Japan Travel」にて取得された、訪日外国人の移動実績データ
 - <http://consulting.navitime.biz/>

【ベース地図】

- CartoDB Dark ("Dark Matter")
 - Map tiles by CartoDB, under CC BY 3.0. Data by OpenStreetMap, under ODbL.
 - [CartoDB](#)
 - (c) [OpenStreetMap contributors](#)

【使用ツール】

- Cesium
 - Cesium is open source under the Apache 2.0 license.
 - Cesium is made possible by AGI and a growing contributor community.
 - + [Analytical Graphics, Inc](#)
 - + [Cesium](#)

新たに収集したショーケース 「日本を楽しむ外国人旅行者」

これは約1万人の訪日外国人が立ち寄った施設と場所を国別に24時間にまとめて可視化したものです。
同一1kmメッシュ内に30分以上連続して存在した場合にその場所に滞在したと判断して表示しています。

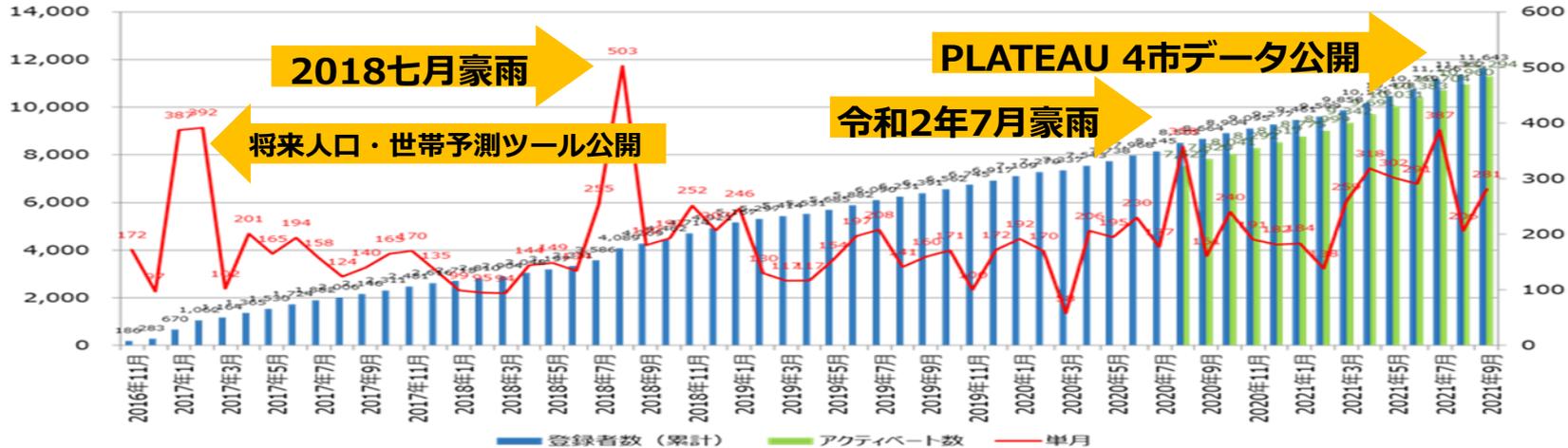


ショーケース一覧を見る

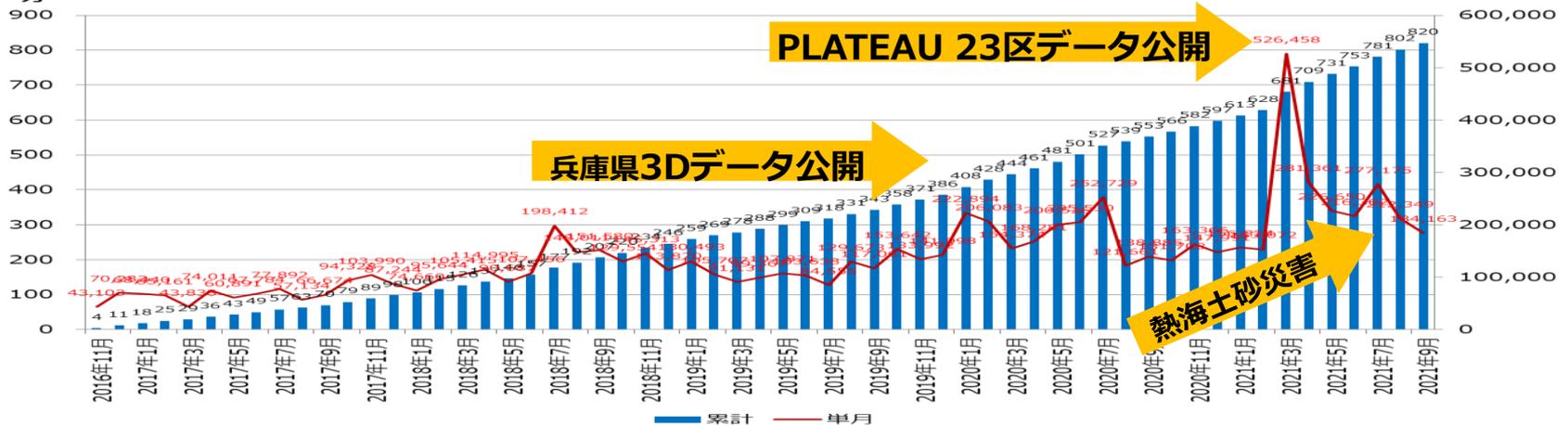
◆G空間事業 (1) G空間情報センターの運営

- ◆ センター開設以来、ユーザー数、アクセス数は堅調に推移し、登録ユーザー11,643人、月間平均約14万PVになっている。
- ◆ 大規模災害時のほか3D屠蘇モデルにアクセス数が増加

ユーザー登録者数 (2016年11月～2021年9月)



ページビュー (2016年11月～2021年9月)



◆G空間事業 (1) G空間情報センターの運営

- ◆ データセット数、登録組織も年々増加（登録組織100件以上、データセット1,800以上増）
- ◆ 最近はPLATEAU 3D都市モデルが人気

データセット数
7,626セット

ファイル数
56,592件

登録組織数
572件



人気のデータセット

1. 3D都市モデル (Project PLATEAU) 東京都23区
2. 3D都市モデル (Project PLATEAU) ポータルサイト
3. 3D都市モデル (Project PLATEAU) 東京都23区 (FBX 2020年度)
4. 全国の人流オープンデータ (1kmメッシュ、市町村単位発地別)
5. 3D都市モデル (Project PLATEAU) 東京都23区 (CityGML 2020年度)
6. 3D都市モデル (Project PLATEAU) 東京都23区 (OBJ 2020年度)
7. 静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
8. 3D都市モデル (Project PLATEAU) 札幌市 (2020年度)
9. 3D都市モデル (Project PLATEAU) 東京都23区 (FBX 4次メッシュ 2020年度)
10. 3D都市モデル (Project PLATEAU) 大阪市 (2020年度)

◆G空間事業 (1) G空間情報センターの運営

- ◆ トライアルデータはデータプロバイダーからの協力を得て、一定の有償データをシステム開発時の試用やプロポーザルなどの企画に使用することに限り、何度でも利用できるようなしたデータパッケージサービス
- ◆ システム開発時に有償データがどんなものかを試行しておきたいといったニーズにも対応
- ◆ まだPR不足

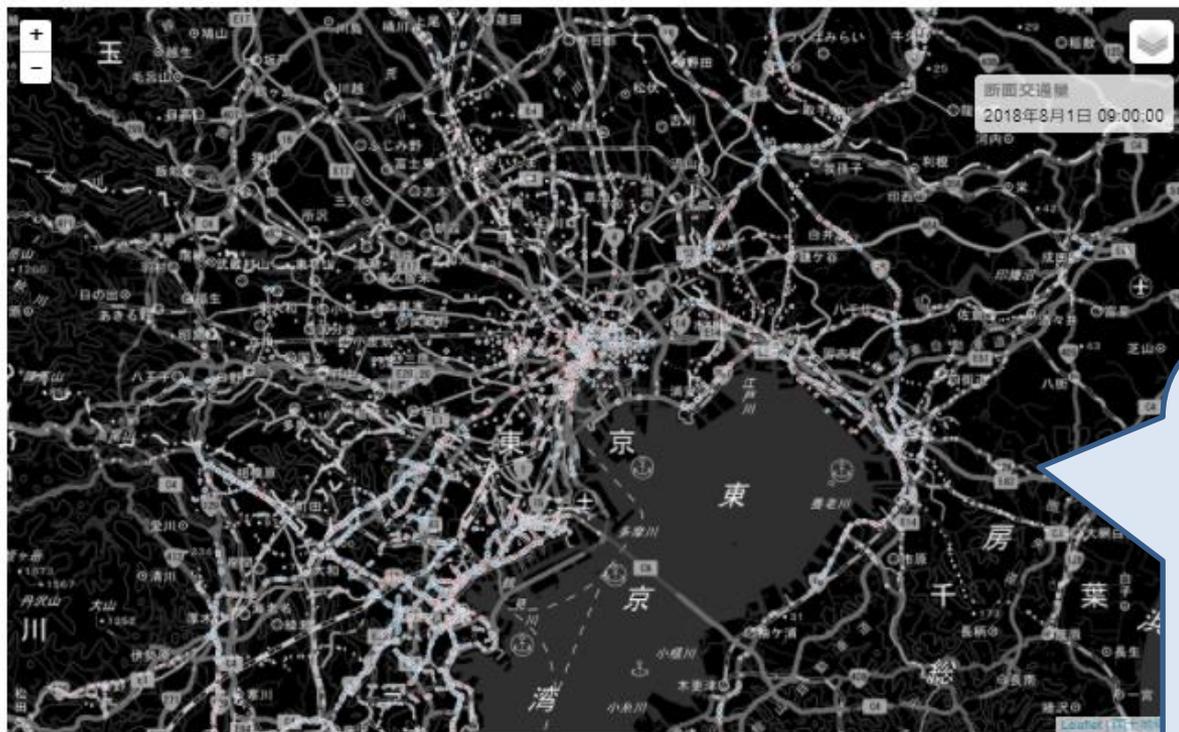
データ利用会員トライアルデータセット

NO	データ名/サービス名	提供企業名
1	「道路プロファイラー」利用サービスの1週間無償利用アカウント	(株)ナビタイムジャパン
2	災害時の通行実績データ	パイオニア(株)
3-1	混雑統計レポートサービス	(株)ゼンリンデータコム
3-2	避難所データベースデータ	(株)ゼンリンデータコム
4	ポイント型流動人口データ	(株)Agoop
5	GOOD-3D 空中写真	朝日航洋(株)
6	航空写真 航空レーザーデータ MMS データ	国際航業(株)
7	リアル3D 都市モデル (250m メッシュ単位)	アジア航測(株)
8	断面交通量 (トラカン) データ API 利用 (緯度経度なし版)	AIGID
9	My City Forecast カスタマイズ機能利用	AIGID
10	有償セミナー参加券	AIGID

◆G空間事業 (1) G空間情報センターの運営

- ◆ 当期の民間データセットについての引き合いは、15件。引き続きPRを模索。
- ◆ AIGIDオリジナルコンテンツの「断面交通情報データAPI（通称：トラカンAPI）」は、売れ筋の一つとなっている。
 - ・ 従来JARTICで直近一カ月の交通量データがオープンになっているものと、交通管理技術協会で有料販売されている感知器の地図を一体にして、API化した。

断面交通量データ



- 全国約4万ヶ所に設置された主要道路の車両検知器（通称：トラカン）の「5分毎の交通量」データをAPIとして提供
- 時間を遡って範囲指定することができるため、過去の断面交通量情報データを取得することが可能
- 商圈分析、集客対策、イベント計画時の混雑の予測、各種申請作成のサポート、交通シミュレーション等に活用

◆G空間事業 (1) G空間情報センターの運営

◆ G空間EXPO2020へのオンライン出展、ユーザ会開催

(令和2年度G空間情報センターを通じた地理空間情報の流通・利用促進業務内で実施)

◆ ユーザ会は事前登録61名当日参加と合わせ計66名

◆ 今回のユーザ会はスマートシティ社会の実現に資するG空間情報をテーマとして、産官学それぞれの立場で行っているスマートシティに関する先進的な取り組み紹介

G空間Expo2020

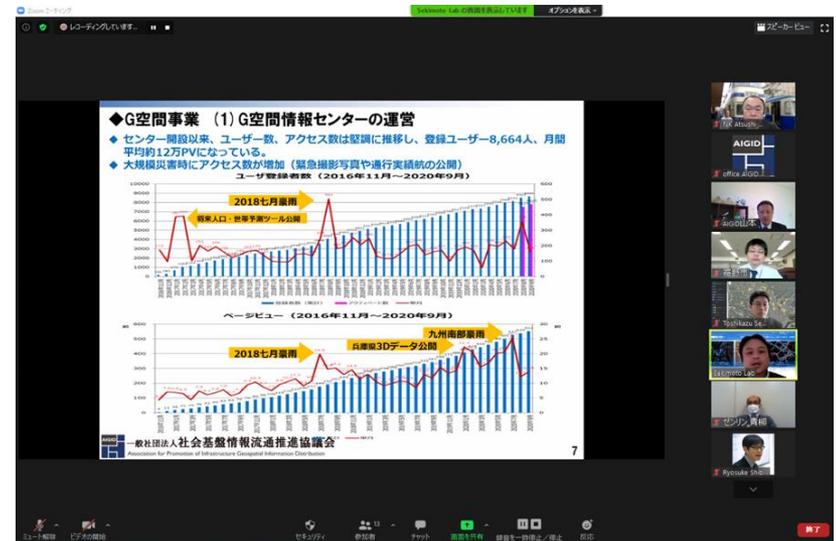
- 出展日: 令和2年11月24日(火)～12月27日(日)
- 開催形式: オンライン
- 出展内容:
 - ・ G空間EXPOサイト上でのセンター概要の紹介
 - ・ G空間EXPOサイト上でのセンターが提供する各種サービスの紹介

ユーザー会

- 日時: 令和2年 12月 22日(火) 13:00～14:30
- 配信URL: <https://youtu.be/KTGFgXxqLEo>
- 申込: 事前申込不要
- 主催: G空間情報センター



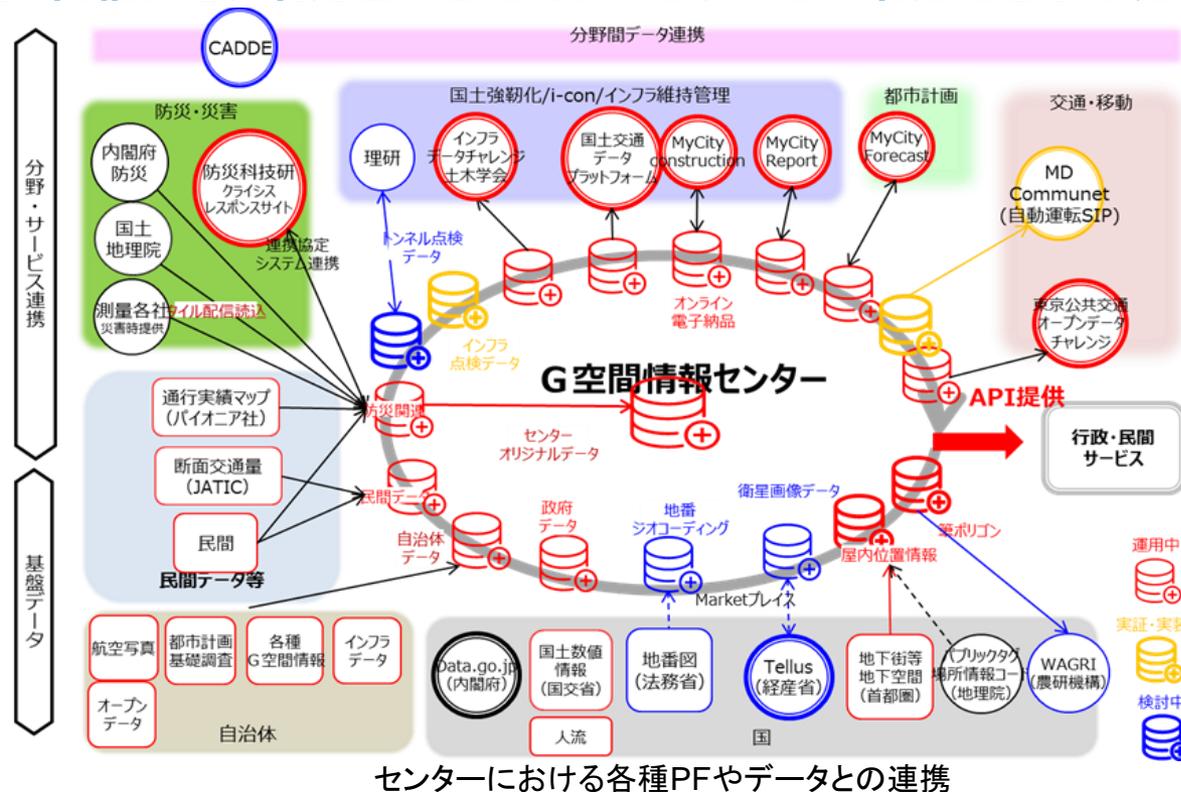
G空間Expoオンラインサイト



ユーザー会の様子

◆G空間事業(2) 令和2年度G空間情報センターを通じた地理空間情報の流通・利用促進業務

- ◆ センターと分野別PF等との相互連携機能を強化するとともに、防災・減災に関するGISデータセットの充実を含め、ユーザーコミュニティの拡大が図られるよう検討を行うい、その成果の実装を進める。
- ◆ 必要となるセンターへの新たなデータのWebサービスで利用しやすいデータ形式で登録を
- ◆ 様々な地理空間情報を、利用者が容易に検索し、入手・利用できる環境の構築を行う

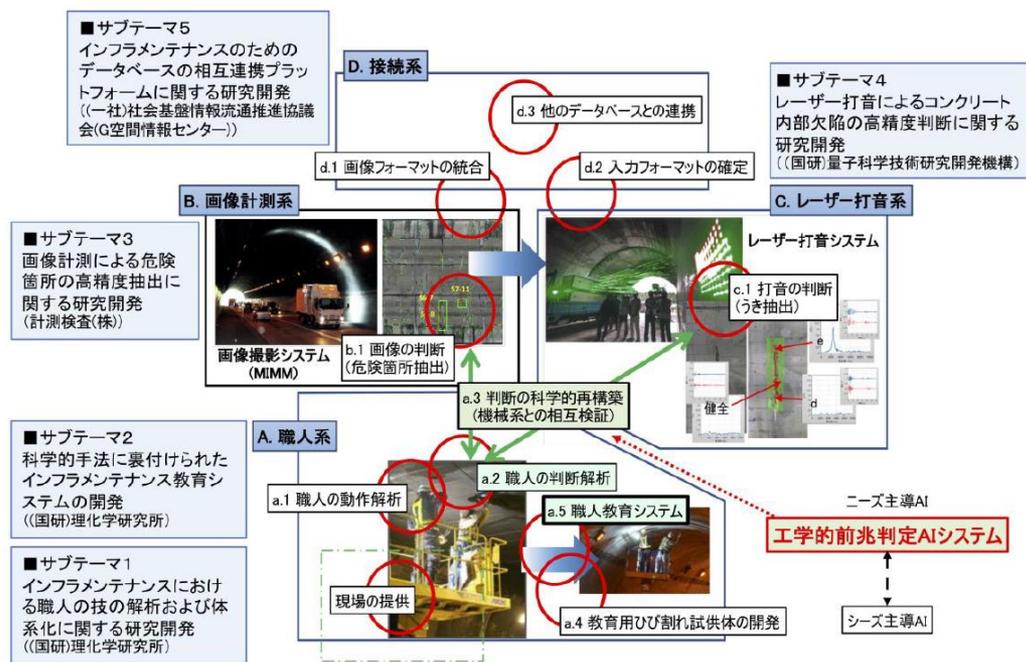


センターにおける各種PFやデータとの連携

◆G空間事業(2) 社会基盤情報の流通・利用促進のための活動

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期/ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術/認知的インタラクション支援技術/インフラ領域における職人の技の伝承教育と機器実装の研究開発

- ◆ 「インフラメンテナンスにおける職人の技の解析及び体系化」「先端計測技術と職人の技の融合」「インフラメンテナンスのためのデータベースの構築」を課題とした研究
- ◆ 国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構、計測調査株式会社との共同研究
- ◆ 当会はデータベースの相互連携プラットフォームに関する研究開発を担当。5年プロジェクトの3年目。



◆G空間事業 (2) 社会基盤情報の流通・利用促進のための活動 — インフラ管理(My City Report)—

◆ My City Reportを安定事業にするため、50自治体にリーチして、10自治体の新規会員獲得を目指しつつ、既存会員自治体での利用頻度も上げていく活動を実践



使い方

まちで見つけた「こまった」を、市民と自治体で簡単に共有することができます。

① こまったを発見
道路の損傷など、まちの「こまった」を発見

② こまったを共有
My City Report for citizensを使って、画像、位置情報などを共有

③ 市民と自治体が協働
共有された「こまった」に対して、自治体と市民が協働対応

アプリの主な機能

- フィルター**
右上にある「フィルター」ボタンを押すと、「自治体」「レポート分類」「ステータス」でレポートをフィルターすることができます。
- 一覧**
「一覧」では、公開されたレポートが更新順に表示されます。タップすると、レポート詳細が表示されます。
- マップ**
「マップ」では、公開されたレポートがマップ上に表示されます。タップすると、レポート詳細が表示されます。

オンラインシンポジウム

身近な所から始める 市民協働とデジタルスマートシティ

～ My City Reportの取組を通して～

東京大学空間情報科学センターでは、生産技術研究部デジタルスマートシティ・デジタル社会連携研究部門、市内17区で連携したデジタル空間社会連携研究機構と連携して、デジタルスマートシティの設計、構築、社会実装を行うための様々な研究を行っています。また、2019年4月より東京府立大学研究員による事業推進体制で研究開発を促して、ICTや最新の技術と結び付けて社会実装し、市民協働の推進を図っています。

近年の新型コロナウイルス感染症拡大に際して、ワーク/生活/移動を兼ね、最先端な人混みを避ける必要がある場所を確保しています。しかし、従来の維持管理や従来の安全行政だけでなく、デジタルコミュニケーション技術をもっと活用する事により行政と市民の相互理解が円滑に進み、市民が当事者意識を自らと持てる事が重要になってきます。そのような問題意識に立ち、東京府をはじめいくつかの自治体で始まっているMy City Reportの取組を通じて、オンラインシンポジウムを開催いたします。多くの皆様にご参加頂きますようお願い申し上げます。

▲ My City Report アプリのマップ画面
(本画面の一部、運用とは異なる場合があります。)

2021 **9/8水** <https://dss.csis.u-tokyo.ac.jp/event/20210908/>
(上記サイトにYoutube LiveのURLを記載しています)

■申し込み、事前申込不要
ただし上記サイトから事前申込頂いた方は質問や資料Dの特典有、質問頂いたものはハネルディスカッションで取り上げる可能性があります。
■配信時間 14:00～16:30

■参加無料

■プログラム	(注) 東京大学空間情報科学センター教授、東京大学デジタル空間社会連携研究機構長 関本 義秀
14:00～14:05	開会挨拶 東京大学空間情報科学センター長 瀬崎 薫
14:05～14:20	基調講演「東京都が目指すデジタルスマートシティと市民協働」 東京都副知事 宮坂 学
14:20～14:30	本学の取組「東京大学におけるデジタルスマートシティの取組と社会実装」 東京大学空間情報科学センター教授 関本 義秀
14:30～14:50	「MCRコンソーシアムにおけるMy City Reportの活動」 東京大学准教授/東京大学空間情報科学センター客員研究員 瀬戸 寿一 一橋大学「Technology for Social Innovation」実用化推進センター客員研究員 前田 龍弥 千葉市市民区民自治体連携推進法務課長 古藤 健 足利市都市整備局土木部課長 藤田 政博 大津市建設部道路・河川管理課管理係主任 瀬崎 好聡
14:50～15:05	「市民参加によるスマートシティ推進」 Code for Japan 代表理事 関治之
15:05～15:20	「東京都におけるMCRの取組」 東京府建設部道路管理係保全課係長(技術担当)主任 若林 幹太
15:20～15:30	「東京都におけるMCR利用事例の紹介」 (東京都内で活動するボランティア団体を予定)
15:30～16:25	ハネルディスカッション 「デジタルスマートシティにおける行政と市民の役割」 (注) 武蔵大学社会学部 教授 住岡 昌彦 (主催) 東京府 副知事 宮坂 学 Code for Japan 代表理事 関治之 東京大学空間情報科学センター 教授 関本 義秀 東京大学文学部 准教授 瀬戸 寿一 東京府建設部道路管理係保全課係長(技術担当)主任 若林 幹太 千葉市市民区民自治体連携推進法務課長 古藤 健 足利市都市整備局土木部課長 藤田 政博 大津市建設部道路・河川管理課管理係主任 瀬崎 好聡
16:30～	閉会

■主催: 東京大学空間情報科学センター、東京大学デジタル空間社会連携研究機構
■共催: 東京都、東京大学生産技術研究所、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会
■My City Reportのアプリは<https://www.mycityreport.jp/>からダウンロードできます。■プログラムは、参加費無料で参加する場合があります。■シンポジウム参加費は無料です。■上記はあくまで参加の目安です。■オンラインプログラムの配信は、dss.dcc.office@sis.u-tokyo.ac.jpまでお問い合わせください。■MCRに関する問合せは、my.city.report@sis.u-tokyo.ac.jpまでお問い合わせください。

◆G空間事業 (2) 社会基盤情報の流通・利用促進のための活動 ー 建設分野のオンライン電子納品推進(My City Construction) ー

- ◆ 静岡県の有償運用が本格化するのでサポートの実践と2番手の自治体グループのフォロー
- ◆ システムの安定稼働と開発改修等について目処をつける（納品が本格化する年度末前に完了させる）



◆G空間事業 (2) 社会基盤情報の流通・利用促進のための活動 — 三次元デジタルツイン環境の開発(デジタルシティサービス) —

◆ 2021年度より「デジタルスマートシティ研究会」を出口にしつつも、やる気のある自治体を中心にDCSの横展開やBID実証実験を中心に推進

デジタル南砺の輪

7/5(月)開始!

デジタルと地域の未来に思いをはせる

「デジタル南砺の輪」とは
知識社会、データエコノミー、デジタルトランスフォーメーション、変革の時代に一歩踏み出すために、そんな思いを持った仲間が、良縁の市街を調べ、定数のサービスを見ながら、デジタルで盛り立つ地域の未来を考える会、それが「デジタル南砺の輪」です。

毎月 第1・第3月曜日
時間 / 18:00~19:00
場所 / オンライン開催
参加無料

主催者

 とちぎ県農林総合センターの会 常務副会長 兼マーケティング部部長 浅谷 一寛	 ICT人材 ICT/DCS代表理事 能登 貴史	 福井大学 情報通信学術院センター 兼本館館長 柴田 重臣	 福井大学 情報通信学術院センター 教員 関本 義秀
---	---	---	--

【主催・連絡先】 デジタル南砺研究会
<https://www.digitalsmartcity.jp/santa-city/>

【参加に希望の方は、こちらのお問い合わせ先へ】
■ info@nanto-cityoffice.jp

デジタル裾野の輪

7/12(月)開始!

デジタルと地域の未来に思いをはせる

「デジタル裾野の輪」とは
知識社会、データエコノミー、デジタルトランスフォーメーション、変革の時代に一歩踏み出すために、そんな思いを持った仲間が、世界の事例を調べ、定数のサービスを見ながら、デジタルで盛り立つ地域の未来を考える会、それが「デジタル裾野の輪」です。

毎月 第2・第4月曜日
時間 / 18:00~19:00
場所 / オンライン開催
参加無料

主催者

 山形県 高岡支庁 森田 慎之介	 定数東信CEG 東京農工大学特任教授 市川 博之	 茨城大学 情報通信学術院センター 兼本館館長 柴田 重臣	 茨城大学 情報通信学術院センター 教員 関本 義秀
---	--	---	--

【主催・連絡先】 デジタル裾野研究会
<https://www.digitalsmartcity.jp/suzono-city/>

【参加に希望の方は、こちらのお問い合わせ先へ】
■ info@suzono-office.org

テークホルダーの意見を聞きながらリクワイヤメントを蓄積しつつ、要望の対応の仕方なども考えていく

◆G空間事業 (2) 社会基盤情報の流通・利用促進のための活動 — 研究会 —

◆ 各種研究会の設置、運営、支援の実践

民間事業者によるリアルタイム災害情報提供研究会

■ リアルタイム災害情報テストサイト

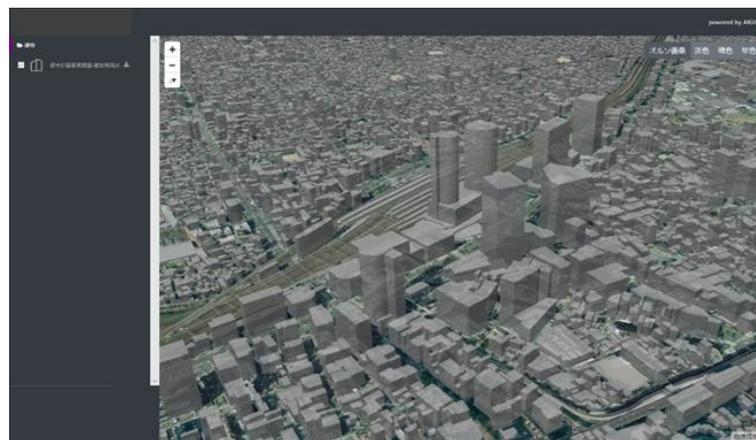
テスト中サイト：<http://wscart.geospatial.jp/disaster-info/#>



- ・R2第3回研究会 令和2年12月24日
- ・R2第4回研究会 令和3年3月24日
- ・R3第1回研究会 令和3年6月17日
- ・R3第2回研究会 令和3年9月30日

デジタルスマートシティ研究会

- 都市計画基礎調査データを利用して作成した3次元都市モデル



- ・第3回研究会 令和2年12月15日
- ・第4回研究会 令和3年3月15日
- ・第5回研究会 令和3年6月15日
- ・第6回研究会 令和3年9月28日

◆G空間事業 (2) 社会基盤情報の流通・利用促進のための活動 — 有料セミナー —

- ◆ 引き続き、センター認知度アップのためにG空間情報センター自体のPR、サービスプロダクトのPRを実践する。また、購買に繋がるイベント出展・ミニセミナー（コロナ禍においてはオンライン開催も計画）の実施及びコンテンツの提供し、購買ユーザ、ファン層を拡大する。

**【超入門！】
GISオンライン講座**
『統計情報を地図にしよう！』

日時： 2020年10月26日(火)、27日(水)
各日19:00-21:00 (計4時間)

場所： あなたのいる場所(zoomオンライン開催)
参加： 5,000円 定員： 30名程度

ご自身のビジネスや災害支援、医療福祉、更には趣味など幅広く活用できるGISに触ってみよう☆

本講座で可能になる
マップの作成例

【超入門】GISオンライン講座
令和2年10月26、27日 (2日間)
令和3年3月22、23日 (2日間)
開催

【超入門】GIS初めて講座
~コラボ with Aero Asahi~

日時： 2021年5月10日(月)、11日(火)
各日19:00-21:00 (計4時間)

場所： あなたのいる場所(zoomオンライン開催)
参加： 3,000円 定員： 20名程度

なかなか学ぶ機会がない。これからGISを一から学びたい。
そんな方の為の、当講座。
過去に研修に参加された方も、もちろん大歓迎！

GISの歴史や基礎知識、GISを扱う為に必要なソフトウェア“QGIS”のインストールから、基本的な使い方まで、充実のカリキュラムです。

今回は 朝日航空 × G空間情報センター



【超入門】GIS初めて講座
令和3年5月10、11日 (2日間)
令和3年8月23、24日 (2日間)
開催

◆UDC事業

- ◆ UDC（アーバンデータチャレンジ）は、地域課題の解決を目的に、「地域拠点」を単位とする日常的なデータ活用型コミュニティづくりと一般参加を伴う作品コンテストで構成。
- ◆ UDC2021では、第2期の3年目として各種活動と適宜連携を図りながら、地理空間情報の流通や利活用を日本各地でさらに促進させる



UDC2019 作品応募の動向

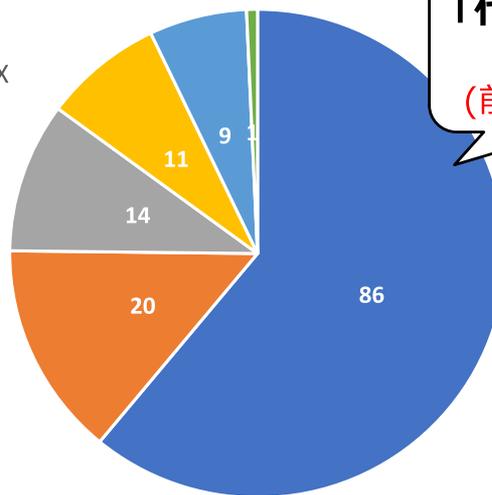
- **本応募作品総数 162 / 応募率75.8%**
 - ファイナリスト（最終審査会）への進出作品 15（約10% !）
- 概要エントリー総数：214
- 地域拠点開催イベントからの応募：82
（愛知:10, 南北海道・新潟・岐阜:6, 大分・三重・沖縄:5, 奈良・岡山:4 ...）

【本作品の応募内訳】

- アプリケーション：50作品
- データ：16作品
- アイデア：77作品
- アクティビティ：19作品

代表者の所属に基づく作品応募組織
合計67機関（前年度:92機関）

- 大学/学校
- Code for XX
- 民間企業
- 公益団体
- 市民団体
- 行政機関



「代表者が学生」
75作品
 (前年度:51作品)

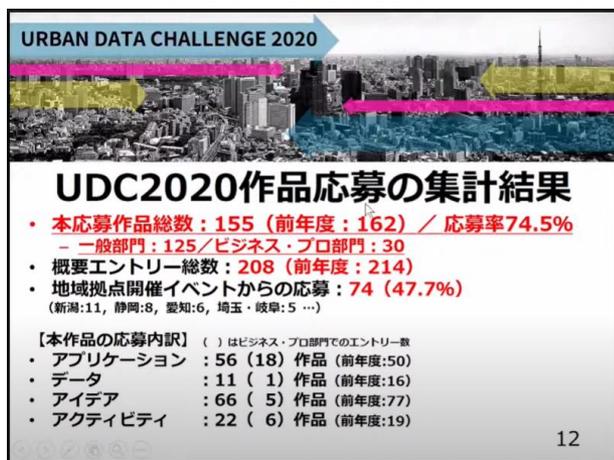
◆UDC事業

- ◆ UDC (アーバンデータチャレンジ) は、地域課題の解決を目的に、「地域拠点」を単位とする日常的なデータ活用型コミュニティづくりと一般参加を伴う作品コンテストで構成
- ◆ UDC2021では、第2期の3年目として各種活動と適宜連携を図りながら、地理空間情報の流通や利活用を日本各地でさらに促進させる

UDC2020の開催(36の地域拠点)

- 作品概要: 2020年12月26日(土)まで
- 作品締切: 2021年01月29日(金)まで
- 最終審査会: 2021年03月13日(土)

東京大学駒場リサーチキャンパス



UDC2020作品応募の集計結果

- 本応募作品総数: 155 (前年度: 162) / 応募率74.5%
- 一般部門: 125 / ビジネス・プロ部門: 30
- 概要エントリー総数: 208 (前年度: 214)
- 地域拠点開催イベントからの応募: 74 (47.7%)
(新潟:11, 静岡:8, 愛知:6, 埼玉:5 ...)

【本作品の応募内訳】 () はビジネス・プロ部門でのエントリー数

- アプリケーション : 56 (18) 作品 (前年度:50)
- データ : 11 (1) 作品 (前年度:16)
- アイデア : 66 (5) 作品 (前年度:77)
- アクティビティ : 22 (6) 作品 (前年度:19)

12

UDC2020: 金賞1, 銀賞2, 銅賞9

ビジネスプロ部門: 最優秀賞1, 優秀賞4 (新設)

実行委員会特別賞: 7

オープンガバメント推進協議会特別賞: 金・銀・銅賞各1

土木学会インフラデータチャレンジ賞: 1

UDC2021の開催

- UDC2021キックオフ: 2021年6月30日(水)



URBAN DATA CHALLENGE 2020

アーバンデータチャレンジ2020
アフターコロナに向けたオープン・デジタルなまちづくりを考える
(東京大学生産技術研究所「デジタルスマートシティイニシアティブ」
第2回公開シンポジウム・土木学会インフラデータチャレンジ2020)

2020年6月30日(火) 13:30~17:30
http://bit.ly/UDC_channel

主催 東京大学生産技術研究所 (一社) 社会基盤情報流通推進協議会 東京大学空間情報科学研究センター 公益社団法人土木学会

後援(予定含む)

